

Title	日本の自動車メーカーのEC進出についての提言
Sub Title	
Author	井澤比呂志(Izawa, Hiroshi) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第812号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0812

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	井澤比呂志	主査	小林 規威
		副査	奥村 昭博
			姉川 知史
所属	小林 規威 研究室		

日本の自動車メーカーのEC進出についての提言

1992年のEC統合を前にして、日本の自動車メーカーはEC進出を急速に推進している。EC統合後の単一市場が出現することにより、日本メーカーにとってヨーロッパの自動車市場は、最も有望な市場といえる。しかし、一方で、EC委員会と日本政府間に輸出自主規制の合意がなされた。

EC統合という大変革が起きようとしているヨーロッパにおいて、日本の自動車メーカーは、ECをどのように評価し、どのように進出することが有効なのだろうか。

EC統合の対EC日本車輸出への影響、直接投資によるトランス・プラント進出の必要性、EC市場進出の可能性とその条件、日本企業の経営資源によるEC進出形態の違い、欧州メーカーの日本メーカーへの対応、日本メーカーに望まれている対応という、以上6つの観点から、この問題を論じてみた。

当論文において、日本の自動車メーカーをその資金面の経営資源から3グループに分け、それぞれについてEC市場への取り組み方を論じている。また、日本の自動車メーカーのEC市場に対する分析・評価を、若干のインタビューと文献により調査した。

その結果、当論文の枠付けと日本の自動車メーカーの枠付けは、必ずしも一致していなかった。

当論文を通じて、日本の自動車メーカーの経営資源別にEC進出形態を、上位は単独進出、中位は合併、下位は進出しないの3つに分け提言した。